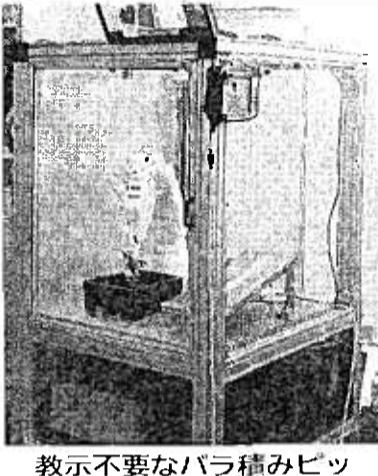


三明機工、MUJINと提携 ピッキングロボ 教示不要タイプ投入



教示不要なバラ積みピックシステム

【静岡】三明機工（静岡市清水区、久保田和雄社長、054・366・0088）は、MUJIN（東京都文京区、滝野一征代表取締役CEO、03・4577・7638）と提携し、年内にティーチレスバラ積みピックシステムの販売を開始する。MUJINが開発した動きを教えるティーチングを不要にしたコントローラーを採用。自動車、食品業界などの需要を取り込み、2018年3月期に2億円の売り上げを見込む。

産業用ロボットのデータ入力不足が課題となつてゐる。産業用ロボット需要が拡大する中、学発のベンチャー企業MUJINは東京大

グラムはティーチング技能者（教示）によつて行つる。MUJINは東京大

で、完全ティーチレスのバラ積みピックシステムを作成、ワークの把持位置や姿勢の登録、搬送可能箇所の登録、搬送つをするだけで、3週間程度でバラ積みピックシステムを開発。ユーザーやバーンダント上でロボットの動作環境

三明機工は、ロボット・FAシステム、ダイカストマシン周辺自動化システムなどを手がける。

三明機工はこれまでのロボット・FAシステムのノウハウを活用し、産業用ロボットと組み合わせシステムインテグレーションする。ランダムに積まれたワーク（対象物）を3次元（3Dカメラ）で認識し、その情報を元にロボットが取り出し、整理させる。自動化ラインの前行程で、より高精度・高効率・安全性の高いバラ積みロボットシステムを目指す。

ピックティングは自動化が遅れており、事業の柱の一つに育成する考

え。

三明機工は、ロボット・FAシステム、ダイカストマシン周辺自動化システムなどを手がける。